

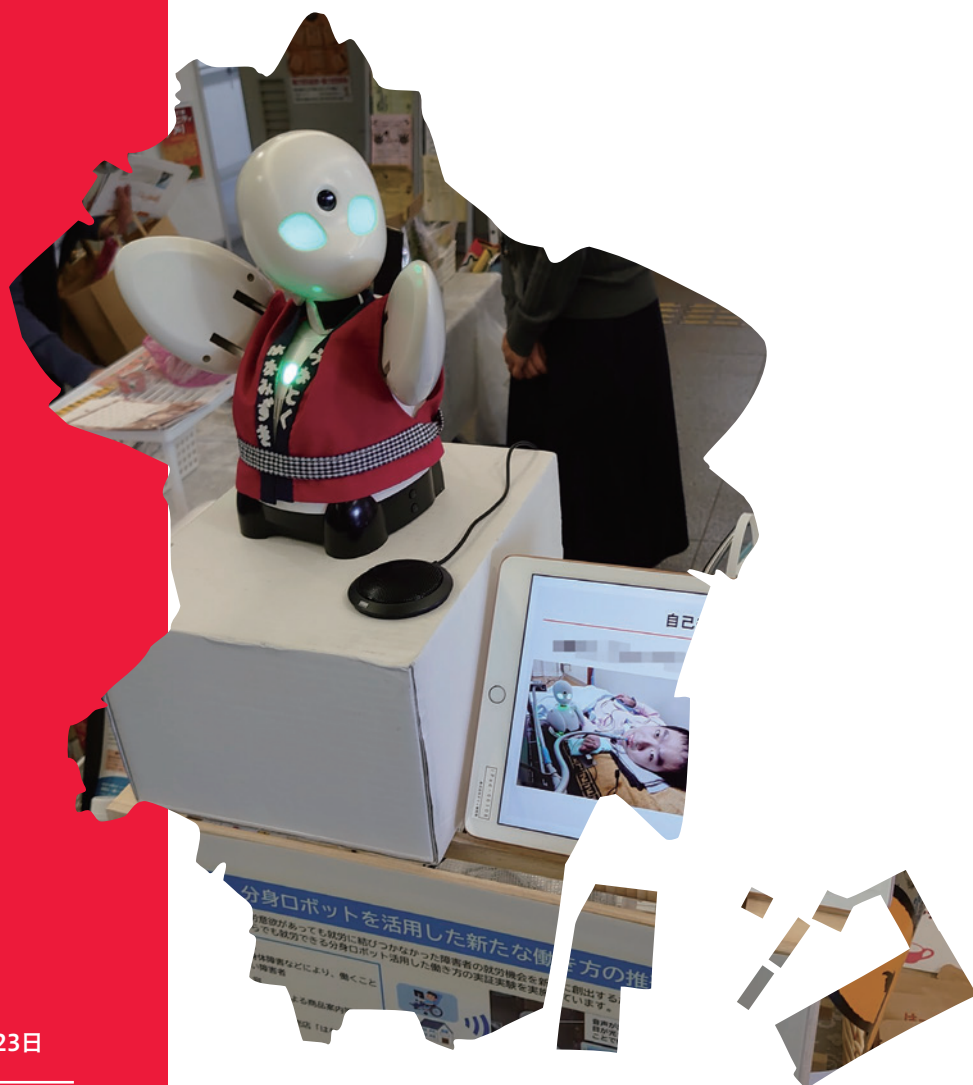
福祉・保健分野

みなとタウンフォーラム 第9グループ

第9グループ[メンバー]

小黒 敏朗 ケルチ アブデラ 佐々木 真由美
澤井 加恵 下出 香織 成田 祐一
延原 みか子 村上 知範 八木 嘉也

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

提言にあたって

第9グループ【福祉・保健分野】

私たち第9グループでは、福祉・保健分野について、メンバーの関心や課題意識をもとに「高齢・介護」、「障害者支援」、「健康づくり」の3つをテーマに選び、議論を重ねました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、飲食や移動に対する行動制限、3密の回避といった新しい生活様式の定着、それらに伴い加速しているDXの推進など、これまでになかった様々な影響や変化を生み出しています。加えて、港区においては、転出入が多く、区民の約9割が集合住宅に居住している都心ならではの特性等を背景に、コロナ禍による影響と相まって、人と人のつながりの希薄化が危惧されています。

コロナ禍により、人々の健康に関する意識がかってない高まりを見せている一方で、生活習慣病の罹患者数や心の不調を訴える人たちの増加など、健康に関する課題は一層深刻化しています。

他方、高齢者人口の増加に対して全国的な介護人材の不足が加速しているほか、障害者の高齢化・重度化も進んでいます。また、障害者差別解消法をはじめとする関連法案の改正など、私たちのグループのテーマを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。

社会情勢の変化の確認と合わせて、現在の区における取組内容や区として感じている課題なども確認し、私たちは各テーマにおける議論を行いました。

「高齢・介護」というテーマでは「情報提供や支援の届け方の工夫が不十分」、「生きがいやつながりを感じられる場や機会の不足」、「介護従事者の不足」といった課題から、情報提供のあり方、高齢者とDX、居場所づくり、人材確保に向けた取り組みを提言しています。

「障害者支援」というテーマでは、障害者・障害児の利用するサービスや就労機会の不足、障害者への理解不足という課題があり、日中における障害者や障害児の居場所確保、画一的ではない個性に応じた多様な就労機会の創出支援、より一層の障害者への理解促進に向けた取り組

みを提言しています。

「健康づくり」というテーマでは、がん罹病のリスクを下げるための仕組みの必要性、QOL（生活の質）の低下を招く健康リスク、心の不調や心配ごとを抱えた人への対策、健康分野における情報の共有やDXへの対応、気軽にできる健康相談や患者に寄り添う体制の必要性などの課題があり、病気の予防や病気後のケアの取り組みの強化、心の健康を保つための取り組み、医療情報のDX推進などを提言しています。

さらに、議論を進めていく中で、3つのテーマに共通する課題が浮き彫りとなってきました。例えば、行政からの情報は非常に膨大であり、必要な情報が必要な人に届いていないのではという課題を共有しました。こうしたことから、情報を届ける対象者に応じて、分かりやすさ、利用しやすさを徹底することが重要であり、テーマの垣根を越えて取り組む必要があります。

また、コロナ禍を受けて、多くの人が仕事と家族の看病を両立することの難しさを痛感しました。この経験は、人々の意識や働き方、行政の支援のあり方等の変革に生かされていくべきです。こうした議論を背景に、高齢者や障害者、がん患者など、家族を在宅で介護している人（ケアラー）を対象に、介護を理由に休職や退職することなく仕事が継続できるような支援についても提言しています。

私たちは、この提言が港区基本計画の見直しに反映され、高齢者がいきいきと暮らし、社会活動をすることができ、障害のある人もない人も互いに歩み寄り、多様性が認められ、区民みんなが病気を予防し、また、病気と付き合いながら、充実した生活を送ることのできる港区になることを願っています。

港区で暮らす人、働く人が健康でいきいきとしていることは、まちの活力や魅力そのものであり、港区の大きな資産になります。大切な資産を皆で育み、「心豊かに健やかに過ごせるまち」を目指しましょう。

提言の体系

具体的な取組

【テーマ1】 高齢・介護	<ul style="list-style-type: none">● 必要な人に必要な支援や情報を届ける。● 高齢者に配慮したDXを推進する● いつでも集まることのできる居場所づくりや人とのつながりづくりを促進する● 介護人材を確保しながら、介護施設やサービスの充実を図る
【テーマ2】 障害者支援	<ul style="list-style-type: none">● 日中の障害者・障害児の居場所の確保● 障害者への多様な就労支援● 障害者への理解促進
【テーマ3】 健康づくり	<ul style="list-style-type: none">● 病気にならないための予防と病気になってからのケア双方の取組を強化する● 心の健康を保つことで、すべての健康につなげる● 医療情報におけるDXの取組を推進する● 地域全体で健康意識を高める
【3テーマ共通】	<ul style="list-style-type: none">● 行政からの一方的な情報発信ではなく、区民が必要な情報を得られるように、広報やHP、SNS等の媒体を戦略的に活用する。● 区民自身がサービスの対象者かを簡単に分かる窓口やシステムを整える。対象者が必要な情報を得られるようにDXや紙媒体を通じた情報発信を行う。● 家族に介護が必要な高齢者や障害者、がん患者等がいても、介護をする人（ケアラー）が休職や退職することなく仕事を継続できるように、在宅勤務やオンライン会議をはじめ、働き方の選択肢を広げるために、国や東京都とも連携して仕組みづくりを推進する。● 入所施設や病院以外にも、介護や療養が必要な人の居場所の確保や拡充を進める。

3テーマ共通の将来像

心豊かに健やかに過ごせるまち

新型コロナウイルスの感染拡大により、新しい生活様式が浸透する一方で、行動制限に伴い希薄化してしまった人とのつながりを取り戻し、心豊かに健やかに過ごせるまちを目指す。

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「高齢者がいきいきと暮らし、社会参加できるまち」

高齢者に配慮したDXや介護人材の確保を進めるとともに、いつでも集まることができる居場所をつくることで、高齢者が生きがいや人とのつながりを実感し、社会参加できるまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

一人暮らし高齢者の増加

- ・高齢者人口の増加に伴い、一人暮らし高齢者も今後増加していく見込みである。

介護従事者の不足

- ・全国的に介護人材が不足しており、今後の高齢者人口の更なる増加とともに人材不足が一層加速する。

コロナ禍による環境変化

- ・DXにより、様々な技術やサービスの多様化が進展している。
- ・感染対策のための行動制限により、高齢者の運動不足や社会参加の機会の減少が懸念される。

つながりの希薄化

- ・区民の約9割が集合住宅に居住していることから、近隣住民同士とのコミュニケーションが取りにくい。
- ・転出入が多く、町会や自治会等のコミュニティへの加入が進まずに、顔の見える関係をつくるのが難しくなっている。

3 実現に向けた課題

課題(1): 情報提供や支援の届け方が不十分

- 行政情報が多岐にわたり過ぎていて、必要な情報にアクセスしづらい。
- 特に、一人暮らし高齢者には支援が行き届きにくい。
- プッシュ型のアプローチとしてふれあい相談員の訪問があるが、今後も増加する高齢者に対応し切れなくなる可能性がある。
- DXに取り残される人がいないように留意が必要になる。

課題(2): 生きがいやつながりを感じられる場や機会の不足

- コロナ禍における行動制限の長期化等に伴い、高齢者の外出機会が減少している。
- コミュニケーション不足による高齢者の孤独や孤立が懸念される。

課題(3): 介護従事者の不足

- 区の今後の高齢者人口の更なる増加とともに人材不足が一層加速する。
- 国の介護保険制度の枠組みを踏まえつつ、介護人材の確保と介護施設やサービスの充実の両立が求められる。

4 施策の方向性・具体的な取組

課題(1)への対応①:必要な人に必要な支援や情報を届ける

- 医療機関、各関係機関、民間団体、区民が立ち寄る機会の多い施設等と連携し、伝わりやすい場所や媒体から高齢者はじめ区民への情報提供を充実させる。
- 福祉総合窓口の周知を徹底する。
- ふれあい相談員の拡充に加え、町会や区民の自主活動グループと連携し、区や地域との接点のない高齢者で支援ニーズのある人を掘り起こし、情報やサービスを提供する。

課題(1)への対応②:高齢者に配慮したDXを推進する

- デジタルに不慣れな高齢者がDXに取り残されないための講座や相談を充実させる。
- オンラインか対面か、区民が選択できる手続きや相談対応をフレキシブルに行う。
- 各高齢者施設に必要な支援を分析した上で、配膳ロボットの活用など、先端技術を活用した介護従事者の負担軽減策を積極的に採り入れる。
- 高齢者の健康づくりや地域活動に対し、マイナポイントや区内の商店で使えるポイント等を付与するなど、外出や社会参加を促すとともに、高齢者への見守りにもつなげる。
- 竹芝エリアなどで取り組まれているビッグデータの活用事例を参考に、高齢者の行動データ等から傾向や課題を分析し、必要な支援策に結びつける。

課題(2)への対応:いつでも集まることのできる居場所づくりや人とのつながりづくりを促進する

- 困ったときに行きやすいつながりの場づくりを進める。
- 支援が必要な人を行政や社会福祉協議会等の支援機関に結び付けられるように、町会や自治会だけでなく、企業やマンションの管理組合等に協力を仰ぐ。
- いきいきプラザ等で実施している講座や教室への参加をさらに促進し、高齢者の社会参加、社会活動につなげる。

課題(3)への対応:介護人材を確保しながら、介護施設やサービスの充実を図る

- 23の特別区の中で情報共有や連携を図りながら、人材の確保や育成に向けて、国に働きかけるとともに、独自の取組を進めていく。
- 有資格の人材不足を補うために、元気な高齢者、障害者や外国人など、幅広い人材活用を検討し、介護をサポートする仕組みづくりを検討する。
- 保育士の人材確保支援等を参考に、区による住宅確保や家賃補助等による支援、介護人材の確保と定着を促進する。
- 介護職員がやりがいなど自己肯定感を高める事ができるように、利用者やその家族からの意見を聞くことのできる場や他施設の職員同士など第三者と交流を深める機会を設ける。
- 介護職員の勤務環境を改善するための研究・効果検証や、成功事例を踏まえた情報交換会や勉強会を行う。
- 介護が必要な人への理解促進や介護の仕事に対するイメージ向上のために、学校や地域との連携やメディア等を通じた普及啓発を図る。

5 参画と協働の推進

- 区民と地域、行政が連携し、誰一人取り残さずに、住み慣れた港区で住み続けられるための地域包括ケアを推進する。
- 共通の不安、悩みを抱えている高齢者同士で互助的な仕組みを作り、助け合いを促進する。例えば、いきいきプラザの区主催の講習会などを通じて、つながりづくりを支援する。

障害者支援

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「障害のある人もない人も、互いに歩み寄り、多様性が認められるまち」

障害者を取り巻く環境は、就労や家族の負担、障害への理解不足などの課題があるが、障害者一人ひとりの個性を生かした就労機会の提供や施設以外の居場所の提供により、多様性を認め合えるまちをめざす。

2 踏まえるべき社会変化

区の人口増に伴う障害者数の増加

- 区の人口増加に伴い、障害者も今後増加していく見込みであることから、障害特性に応じた支援ニーズも多様化することが想定できる。

障害者差別解消法の改正

- これまで民間企業の努力義務とされてきた障害者への「合理的配慮の提供」について、法改正により、国や地方自治体と同様に法的義務となったことで、障害者一人ひとりの事情に合わせた対応が浸透していくことが期待できる。

DXの推進

- 遠隔ロボット等のICT化の推進やコロナ禍を契機としたテレワークの普及などにより、障害者やその家族にとっての働き方の多様化が進みつつある。

3 実現に向けた課題

課題(1): 障害者・障害児が利用するサービスの不足

- 障害者本人や介護する家族の高齢化等に伴い、施設に通うなどの日中活動の継続が難しくなる可能性がある。
- 親が働いている日中の時間帯に障害児を安心して預けられる場所が足りない。
- 障害者本人や家族などの日常の困りごとの把握、支援ニーズの掘り起こしが必要である。
- 移動支援の事業所や行動援護サービスを提供できる事業所を増やすことが必要である。

課題(2): 障害者の就労機会の不足

- 就労に必要な知識や専門性を習得する機会が少ない。
- 働き方の種類が限定的である。
- 障害者雇用にあたり、採用や育成等について企業の不安や負担を軽減する必要がある。

課題(3): 障害者への理解の一層の促進

- 障害のある人もない人も、分け隔てなくつながれる環境やコミュニティづくりが必要である。
- 障害特性によっては、パニックになったり、大声を出したりすることがあることを理解し、受け入れられる意識啓発や仕組みづくりが求められる。

4 施策の方向性・具体的な取組

課題(1)への対応:日中の障害者・障害児の居場所の確保

- 日中は就労や機能訓練などに通いながら入居できる住まいの確保など、障害者を施設だけに留まらせずに、地域で活動できる環境整備に取り組む。
- 特別支援学校等の放課後の時間も障害児を預かれる場所とサービスの提供を進める。
- 障害者の移動を支援するためのサービスを拡充する。
- 日中サービス支援型グループホームの設置と活用を推進する。

課題(2)への対応:障害者への多様な就労支援

- 短時間勤務やオンライン勤務、成果型勤務、キャリア形成など、障害者の多様な働き方を支援することと併せて、企業が障害者を雇用しやすいように、理解促進や支援充実を進める。
- 雇用促進をする企業への支援により、DXやAIの活用を促進し、現状より高いレベルの仕事や在宅で勤務できる就労機会を拡大する。
- 障害者雇用に、転職サイト等と連携して積極的な雇用の仕組みをつくる。企業の雇用を促すインセンティブを付与する。
- 障害者が描いた文字や絵を基にフォントやデザインのデータを制作する他自治体の取組のように、企業や学校、団体、障害者との相互連携を推進し、ジョブコーチを育成するなど、一人ひとりの個性や才能を生かした多様な職務内容の提供を拡充する。
- 就労のための専門性を高められる教育の機会創出を図るなど、障害者の多様な働き方の実現を支援する。

課題(3)への対応:障害者への理解促進

- 多くの人々が障害について知り、身近に考えてもらうために、企業や学校などにおいて交流の場を設け、障害者のありのままを受け入れられる環境づくりを推進する。
- 公共施設等に、障害者や泣いている子どもが心を落ち着かせるための一時的な居場所として空港等に設置されているカームダウン・クールダウンスペースを導入するなど、障害者だけでなく困っている誰かをやさしく受け入れられる仕組みづくりの検討や意識の浸透を図る。
- 幼少期から障害者に対する理解を深めるために、小・中学校の総合学習やインクルージョン教育の場や区内のお祭り会場等において、障害者とのコミュニケーションを体験できる理解促進やヘルプマークの啓発など、楽しみながら学べる取組を進める。
- 区立の小・中学校や区のコミュニティバスの広告欄などに障害者のアート作品を常時展示することで、障害者への理解を促進する。

5 参画と協働の推進

- 区内企業における障害者による物販やマルシェの開催など、企業や関係団体と連携した販路拡大や就労支援の取組を積極的に進める。

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「病気を予防し、病気と付き合いながら、誰もが健康でいきいきと生活を送れるまち」

がんや糖尿病など生活習慣病やメンタルヘルスに不調を抱える人が増加傾向にある中、検診の早期受診やDXによる医療情報の活用、健康増進の取組や啓発を進めるなど、あらゆる人が病気を予防し、いきいきと生活できるまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

生活習慣病の増加

- ・がん罹患患者数、死亡者数は増加しており、2人に1人がかかる可能性のある病気になっている。
- ・糖尿病患者が増えることで、人工透析など医療費が増大することが懸念される。

心の不調を訴える人の増加

- ・メンタルヘルス不調を訴える人は元々増加傾向にあったが、コロナ禍を契機に一層増加した。

DXの推進

- ・マイナンバーカードが健康保険証として利用可能になり、医療情報の引継ぎなど今後、健康や医療の情報のデジタル化が一層進展する。

3 実現に向けた課題

課題(1): がん検診の早期受診、がんの早期発見、罹病のリスクを下げるための仕組みが必要

- ・がんは長期にわたる治療が必要
- ・港区のがん検診受診率は、23区の中でも高いが、検査陽性になった人が精密検査を受ける割合である精密検査受診率は低迷している。
- ・会社に属さず健康診断を受ける機会が少ない人の受診率が伸び悩んでいる。

課題(2): QOL(生活の質)の低下を招く健康リスクの増大

- ・がんや生活習慣病は、経過観察と長期の治療が必要。
- ・高齢化の進展に伴い、糖尿病患者が増加している。
- ・糖尿病は様々な合併症を引き起こすため、悪化すると生活に様々な制限がかかる。
- ・新型コロナウイルス感染症の後遺症の影響が長期化し、就労の継続等が難しくなっている人がいる。

課題(3):心の不調や心配ごとを抱えた人への一層の対策が必要

- 誰にも悩みを打ち明けられず、相談窓口にも結び付かず、ひとり悩んで亡くなる人がいる。
- 区の特徴として、全国や都と比較して、働き盛りの人や女性の自殺が多い傾向にある。

課題(4):情報の共有やDXへの対応が急務

- 健康に関する情報をいかに必要な人へ届けるか、効果的な手法の検討が必要。
- かかりつけ医が高齢化し、世代交代することにより、患者の情報がうまく引き継げない可能性がある。
- マイナンバーカードの健康保険証利用が始まっているが、受付時間が短縮されるなどのメリットがある反面、スタッフの高齢化やセキュリティ面での不安等の理由で、カードリーダーなどの機器導入にハードルを感じる医療機関や薬局もある。
- 医療情報の共有・連携が重要である一方、個人情報保護の徹底も不可欠。

課題(5):気軽にできる健康相談や健康状態に合わせたケアなど患者に寄り添う体制が不十分

- 罹患した後、タイムスパンの長いケアが必要で、かかりつけ医の活用など、その人の健康状態に合わせた個別のサポートが必要。
- 何らかの症状がないと、なかなか医療機関へ行けず健康相談ができない。
- 地域で気軽に健康相談ができるような、かかりつけ医の存在が必要。

4 施策の方向性・具体的な取組

課題(1)及び(2)への対応:病氣にならないための予防と病氣になってからのケア双方の取組を強化する

- 健康づくりや介護予防に取り組んだ分に応じて、本人に還元されるような仕組みづくりを検討する。
- 映像コンテンツなどを通じて、がんや糖尿病などの生活習慣病に対する理解を深める。
- 企業と連携した食育講座や、アプリを活用したウォーキングイベントやポイントの還元など、楽しみながら運動する習慣を身に付けられる仕組みづくりを進めることで、区民の免疫力を高められる取組を推進する。
- 高齢者が健康づくりに取り組める施設を利用しやすくする。
- 定期健診の受診促進策として、インセンティブを付与して定期健診や精密検査受診の促進につなげる。
- 診療所等において福祉総合窓口の案内をするなど、医療と福祉の距離を縮める工夫を図る。
- 高齢者の脳卒中やけがなどの予防のための生活習慣改善
- がんや新型コロナウイルス感染症の後遺症患者など、健康上の理由で仕事や生活に困難を抱えている人への相談支援を充実する。

課題(3)への対応:心の健康を保つことで、すべての健康につなげる

- 心の悩みを抱えている人の悩みを聞き、サポートできる人材（ゲートキーパー等）を増やすことで、自殺者の減少につなげる。
- 子どもや若い世代への自殺予防対策に学校や関係機関と連携して取り組む。

課題(4)への対応:医療情報におけるDXの取組を推進する

- 一人の患者に対して、複数の医療機関や介護施設が個人情報に配慮しながら、診療や服薬データ、介護度などの医療情報や介護情報を共有し、効果的な支援に結びつける環境を整備する。
- マイナンバーカードの健康保険証利用を促進し、重複投薬の防止や業務の効率化につなげる。

課題(5)への対応: 地域全体で健康意識を高める

- 区民がかかりつけ医を持ち、気軽に医師に相談できる仕組みづくりを進める。
- 健康づくりサポーターをはじめ健康に関連する講師を派遣するなど、健康意識向上の場を提供する。
- 他自治体の事例も参考にしながら、地域の実情に合わせた総合的な地域医療を実現する。
- 昼間人口の多い港区の特性を踏まえて、産業医などと連携し、働き盛りの人向けの健康づくりに取り組む。

5 参画と協働の推進

- 企業で働く人の健康づくりを、企業、保険者、地域の関係機関とともに行っていく。

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニケーション分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

横串(よこぐし)の議論について

3つのテーマ（①高齢・介護、②障害者支援、③健康づくり）を話し合う中で、テーマを横串しした議論が活発に交わされました。以下のとおり、テーマの枠組みを越えた取組を提言します。

3つのテーマに共通する取組①:

- 行政からの一方的な情報発信ではなく、区民が必要な情報を得られるように、広報やHP、SNS等の媒体を戦略的に活用する。
- 区民自身がサービスの対象者かを簡単に分かる窓口やシステムを整える。対象者が必要な情報を得られるようにDXや紙媒体を通じた情報発信を行う。

3つのテーマに共通する取組②:

- コロナ禍を経験して、仕事と家族の看病を両立することの難しさを多くの人が痛感した。この時期を捉えて、人々の意識や行政の支援のあり方を変革する必要がある。家族に介護が必要な高齢者や障害者、がん患者等がいても、介護をする人（ケアラー）が休職や退職することなく仕事を継続できるように、在宅勤務やオンライン会議をはじめ、働き方の選択肢を広げるために、国や東京都とも連携して仕組みづくりを推進する。
- 入所施設や病院以外にも、介護や療養が必要な人の居場所の確保や拡充を進める。

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年10月12日(水) 18時30分～20時50分	<ul style="list-style-type: none"> 事務局紹介 グループ会議の進め方について リーダー、サブリーダーの選出 分野における現状と課題について 検討テーマの選定
第2回	令和4年10月24日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第1回グループ会議の振り返り 分野における現状と課題について（前回以降の意見等を踏まえて） 検討テーマ「高齢介護」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第3回	令和4年11月9日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第2回グループ会議の振り返り 検討テーマ「障害者支援」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第4回	令和4年11月28日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第3回グループ会議の振り返り 検討テーマ「健康づくり」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第5回	令和4年12月8日(木) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第4回グループ会議の振り返り 提言内容のブラッシュアップ テーマごとのブラッシュアップ（深掘り） テーマを横断した課題の整理や取組のブラッシュアップ（横申し）
第6回	令和4年12月20日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第5回グループ会議の振り返り 提言内容のブラッシュアップ
第7回	令和5年1月12日(木) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第6回グループ会議の振り返り 提言内容のブラッシュアップ
第8回	令和5年1月26日(木) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第7回グループ会議の振り返り 提言書、提言式発表資料確認

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】